

〈国語〉

説明的な文章における読む力を高める指導の工夫

——視点を明確にし、学びを可視化・共有することを通して（第2学年）——

宮古島市立南小学校教諭 仲間 章 子

I テーマ設定の理由

近年、社会のあり方に影響を及ぼす新たな技術の出現により、私たちの生活は便利で快適になってきた。児童を取り巻く環境も多く、多くの情報であふれ、様々な情報を容易に手に入れることができる。その中で、情報の正誤を見極め、自分の目的に合った情報を取捨選択する力が求められている。

中央教育審議会答申（2016）においては、「教科書の文章を読み解けていない」との調査結果もあり、「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題」と指摘されている。このような背景を踏まえ、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（以下『解説国語編』）では、「様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている」とし、「情報の扱い方に関する事項」が新設された。そこでは、「話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながる」こと、「自分の持つ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながる」ことであるとし、国語科として必要な資質・能力の一つとして明示されている。

平成31年度に行われた「全国学力・学習状況調査」の現任校の調査結果においては、叙述を基にしながら考えを述べることの正答率が低く、「複数の情報を関連付けて理解を深めること」や「正しく情報を読み取ること」に課題があることが分かった。これまでの説明的な文章における自身の授業実践を振り返ってみても、文章を話題ごとに分類したり、文や段落の役割を考えたりして、大まかな構造を捉えることが成果として挙げられる一方、比較するために必要な情報を叙述や挿絵から読み取ることや、既習事項や複数の情報を結び付けて自分なりの疑問や考えを導く読みにつながらないことなどに課題があると感じている。それが、友達と考えを共有する場で、互いの読みを広げたり深めたりすることができていないことにも影響していると考えられる。これらの要因として、児童が「内容を読み取るために必要な視点を明確に把握していない」こと、「比較・対応させるべき対象や事柄が、結びついていない」こと、「読み取ったことを整理できていない」ことなど、情報の扱い方に関する指導が不十分であったことがいえる。

そこで、本研究では説明的な2つの文章「サツマイモのそだて方」を通してテーマに迫る。主な手立てとして、①それぞれの文章から、サツマイモを育てるための視点を明確にして、重要な語や文等を読み取れるようにする。②2つの文章を比較し、共通点や相違点を読み取ることを通して、それぞれのよさや目的を捉えさせる。③読み取ったことや考えたことなどを可視化・共有することを通して、思考を整理・熟考させ、互いの読みを広げたり深めたりする。これらの学習を通して、学び読み取ったことを生活科の野菜作りや実生活に生かすことができるようにし、学ぶ意欲につなげる。このように、視点を明確にし、学んだことを可視化・共有することで、説明的な文章における読む力を高めることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

説明的な文章の「読むこと」の学習において、視点を明確にし、読み取ったことや考えたことなどを可視化・共有することで、重要な語や文等の必要な情報を正しく読み取ったり、互いの考えを広げたり深めたりすることができ、読む力を高めることができるであろう。

II 研究内容

1 説明的な文章における「読む力」について

『解説国語編』における「情報の扱い方に関する事項」が新設された背景については、前述したとおりである。「情報の扱い方に関する事項」は、各領域に共通して必要となる「知識及び技能」として位置付けられており、「情報と情報との関係」に関する事項（ア）と、「情報の整理」に関する事項（イ）という2つの系統に分けて示されている。低学年においては、「情報と情報との関係」のみとなっており、表1の通り、「事柄同士の共通点や相違点を見付けることや、事柄の順序を考えることが、理解したり表現したりする上で大切であることを理解することが重要である。」と示されている。

一方、「読むこと」は、「思考力、判断力、表現力等」に位置付けられており、説明的な文章においては、表2の事項を身につけることができるよう示されている。中村和弘（2018）は、「これらの過程は、一方通行で流れていくのではなく、行ったり来たりしながら文章が読み深められていく」と述べている。

これらの関係について、『解説国語編』では「資質・能力の三つの柱は相互に関連し合い、一体となって働くことが重要である。」と示されていることから、本研究では、これらのことを関連させ、次の手立てを行うことにより効果的な学びを狙う。読む視点を明確に示し、重要な語や文、共通点や相違点、事柄の順序等を正しく読み取り、内容の大体を捉えさせる。また、可視化・共有することで、思考の整理や熟考を促し、感じたことや分かったことなどを共有する。そうすることで、「文章から目的に沿った重要な語や文等の必要な情報を読み取り、考えを広げたり深めたりすること」ができ、これを単元のゴールと位置付け研究を進めていく（図1）。

2 視点の明確化、学びの可視化・共有することについて

(1) 視点の明確化について

デジタル大辞泉によると、「視点」は、「視線の注がれるところ。物事を見たり考えたりする観点」とある。説明的な文章を読むことにおいては、着目する文章や、文、語等のこととして捉える。文章のどこに着目して読めばよいのかという視点を明確に示していくことで、思考が焦点化され、選び出す際に必要なものを取捨選択することができる。そうすることで、重要な語や文等が選び出しやすくなるとともに、情報と

表1 情報の扱い方に関する事項

	第1学年及び2学年の指導事項
情報と情報との関係	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

表2 「読むこと」の指導事項（一部抜粋）

学習過程	第1学年及び2学年の指導事項
構造と内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。
考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
共有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

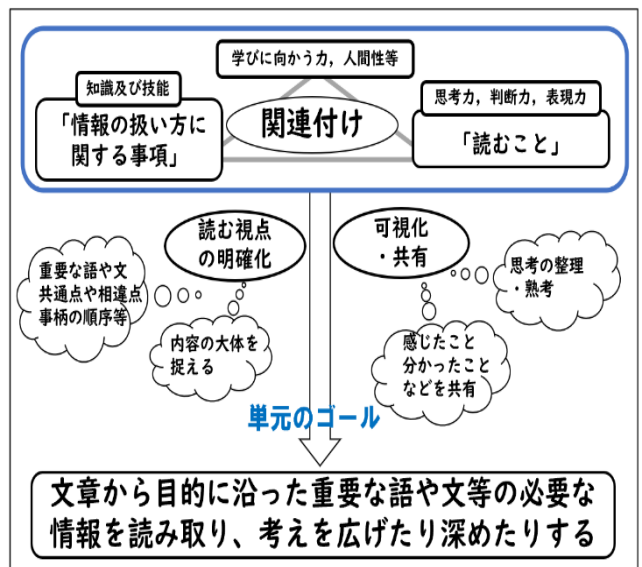


図1 本研究における読む力

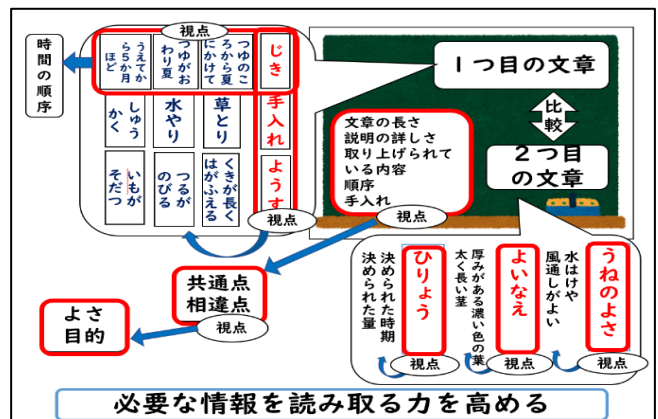


図2 視点を明確にした読み

情報との関係について理解できるのではないかと考えた。

本教材では、図2で示したように、一つの文章から読み取る視点や、二つの文章を比較して読み取る視点を明確に設定し、必要な情報を読む力を養っていく。文章を書く際にも視点を明確にすることにより、必要な情報を選び出すことができ、より説得力のある文章を書くための素地を養うことにもつながっていくと考える。

(2) 可視化について

「実用日本語表現辞典」によると、「可視化」とは、「目で見て把握できるように視覚的な情報で表すこと」と記されている。本研究における可視化は、図3のように、必要な事柄をインプットするための可視化と、熟考・アウトプットするための可視化の二つの機能で進めていく。

検証前の児童アンケートでは、「単元や学習が始まる前に、どんなことを学習するのかが分かる」との質問に対し、40%が否定的な回答であった（図4）。学習の見通しを持たせることや、学習活動の確認ができる環境を作ることが、読む力の土台の一つであると考えられる。そこで、インプットするための可視化では、プレゼンテーションを用いて、単元や学習の方向性を示したり、デモンストレーションを行ったりして、学習の見通しを持たせる。また、掲示物で学習活動や必要な情報を確認して取り組ませる。視覚的に捉えることで、イメージがしやすく、見通しを持って学習のゴールに向かっていけると考えた。

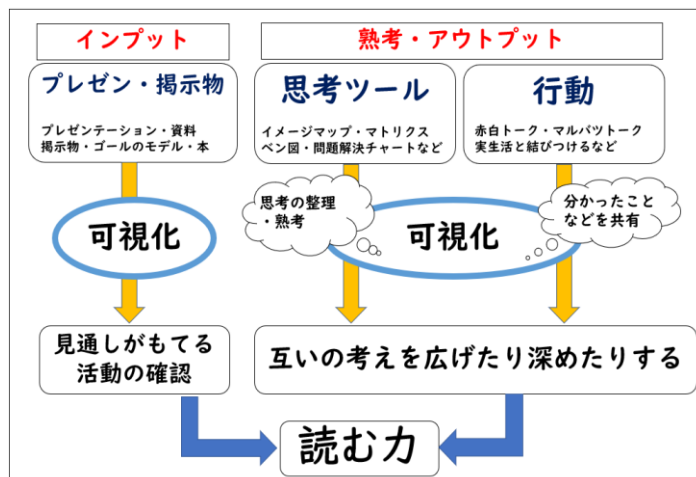


図3 可視化について

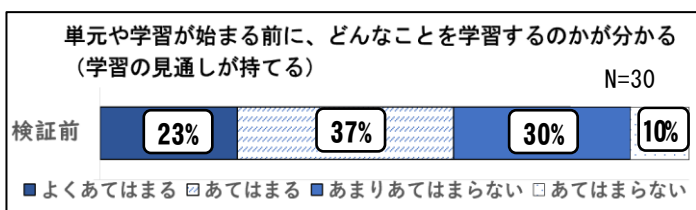


図4 児童アンケートの結果

	思考ツール	主な特徴	活動
①	イメージマップ	一つの話から、いろいろな考えを挙げることができる。	「サツマイモのそだて方」に関する疑問や詳しく知りたいことを、単元計画につなげる。
②	短冊	取捨選択及び構造化できる。順序立てる。	視点に沿った大事な語や文を短冊に書き、並び替える。
③	マトリクス	表に整理することで、一目で分かりやすくなる。	短冊に書いた三つの観点（時期・世話・様子）を表にまとめる。
④	問題解決チャート	問題を解決するために、必要な情報を整理できる。	立派な芋を育てるために必要な情報を抜き出して整理する。
⑤	ベン図	共通点や相違点が分かりやすく整理できる。	2つの文章を比較し、共通点や相違点をまとめる。

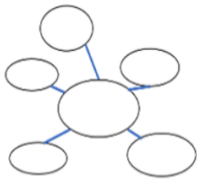
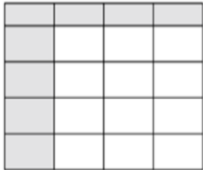
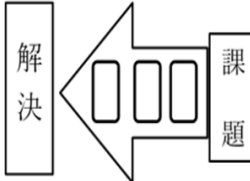
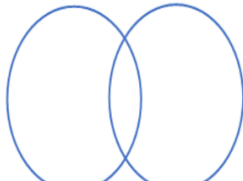
				
① イメージマップ	② 短冊	③ マトリクス	④ 問題解決チャート	⑤ ベン図

図5 本単元で活用する思考ツール例

熟考・アウトプットするための可視化は、思考を助けたり、表現したりする可視化である。ここでは、主に考えの立場を「行動」で示す可視化と、「思考ツール」による可視化で研究を進めていく。思考ツールとは、思考を可視化するための手段の一つであり、それぞれの目的に応じて使い分けることで、効果的な学びが期待できる（図5）。田村学（2017）は、「思考ツールを用いることで、思考力に差がある状況でも思考スキルを実現する枠組みを提供することができる。」「教師は曖昧であった『考える力をつける』ための具体的な指導ができるようになり、子どもたちも思考力を身につけることが可能になる。」ことを述べている。そこで、本研究では、思考を可視化するための一つの手段である思考ツールを活用し、文章を読んだり、書いたりする上で必要な情報を読み取れるように授業改善を図る。

(3) 共有について

桂聖（2020）は、「互いの異なる読みを共有することを触媒にして、自分の読みが変容していくことに意義がある」とし、「読みを一つにすることではなく、共有によって、自分の読みが多様に広がることが重要である」と述べている。『解説国語編』の「読むこと」に関する指導事項でも示されているように、「共有とは、文章を読んで形成してきた自分の考えを表現し、互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたりすることを通して、自分の考えを広げていくこと」とある。低学年では、「文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること」となっており、文章の構造や内容の把握、重要な語や文に着目することを通して、互いの思いや感じ方、考え方を分かち合ったり、認め合ったりすることが求められている。そこで、本研究では、共有する場の工夫を行い、互いの思いや考えを受容する雰囲気をつくりながら、感じたことや分かったことなどを共有することで、考えの違いを認め合ったり、新たな視点に気付いたりする中で、学びを広げたり深めたりしていくことを狙う。

3 言語活動について

『解説国語編』では、低学年の「読むこと」における言語活動例として、「ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動」が示されている。

表3 質の高い言語活動の要件

- | |
|---|
| ① 育成を目指す資質・能力を具体化・顕在化させる言語活動
② 子供たちにとっての課題解決の過程となる言語活動
③ 子供たちが主体的に学ぶことに機能する言語活動 |
|---|

水戸部修治（2018）は、「質の高い言語活動の要件」として、次の三つの視点で設定することを述べている（表3）。それぞれを簡略して解説すると、①子供自身が思考したり判断したりする学習活動の工夫が必要だということ。例えば、「刊行された文章は、文章全体が、重要な言葉」になっているため、「文章の中の重要な語や文を選び出そう」という指示は、具体化、顕在化させることに欠けてしまうことになる。そのため、「初めて知って驚いたことを説明する」などの視点を持たせることで、「考えて選び出す」という、当該単元で目指す資質・能力が具体化され、低学年の子供にもとらえやすくなる。②読むことの指導事項を相互に関連付けることが大切であること。③学ぶ目的や意義・価値・楽しさを実感できるものであることが、目指す資質・能力を身につけることとなり、その原動力となるのが、「主体的に学ぶ意欲」であること。これらのことを踏まえ、本単元では、授業と並行して「育てたい野菜の本」を読むことを位置付ける。そこで読み取った情報をもとに「やさいのそだて方ブックを作ろう」を言語活動に位置付ける。具体的には次の通りである。自分が育てたいと思う野菜の育て方を紹介する「イメージマップ」を作る。その際、読む人が、育て方の流れをイメージできる語や文、絵等を考えて選び出すことを、情報を読み取る視点として示す。それぞれが作った「イメージマップ」を1冊にまとめ、「やさいのそだて方ブック」として仕上げる。学んで身につけた資質・能力が、生活科の野菜作りや実生活に役立つということを、主体的に学ぶ意欲に結びつけながら研究を進めていく。

Ⅲ 指導の実際

- 1 単元名 「やさいのそだて方ブック」を作ろう
教材名 「サツマイモのそだて方」(東京書籍 2 上)

2 単元目標

- (1) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
【知識及び技能 (2)ア】
- (2) 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
【思考力、判断力、表現力等 C(1)ア】
- (3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
【思考力、判断力、表現力等 C(1)ウ】
- (4) 学習課題を明確にし、二つの文章を読み比べて分かったことや考えたことを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。【(2)ア】	①時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。【C(1)ア】 ②文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。【C(1)ウ】	①学習課題を明確にし、二つの文章を読み比べて分かったことや考えたことを伝え合おうとしている。

4 単元の指導と評価計画 (全 12 時)

時	学習目標	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎視点 ◇可視化 ◆共有	【評価規準】
第一次	1 ○学習の見通しを持つことができる。	・ICT を用いて、既習事項を振り返ったり、チャレンジ問題に挑戦したりする。 ・二つの文章を読み、気付いたことを話し合う。 ・言語活動のモデルを示し、ゴールに向かうための学習計画を立てる。	○既習事項を想起させる。 ○イメージマップで、サツマイモの育て方に関する知りたいことを記録・共有し、どちらの文章を読むと分かりやすいかという問いにつなげる。◇イメージマップ◆グループ ○全文シートを用いて気付いたことを共有させ、計画につなげる。◇全文シート◆全体	《指導に生かす評価》 ・学習の見通しを持つことができた。
	2 ○二つの文章の違いを大まかに捉えることができる。			
第二次	3 ○一つ目の文章を読み、時間的な順序や事柄の順序等を考えながら、内容の大体を捉えることができる。	*並行読書 育てたい野菜の本を読む。 ・一つ目の文章を読み、視点に沿って、重要な語や文を選び出す。 ・読み取ったことをまとめて順序や構成を考える。 ・二つ目の文章を読み、視点に沿って、重要な語や文を選び出す。 ・課題を解決するための必要な語や文を考えて抜き出す。	○読み取る視点を明確に提示する。 ★「時期」「手入れ」「様子」◆グループ ○読み取ったことを記録し、整理することで、文章構造や内容の理解を深める。 ◇短冊◇マトリクス◆グループ ○一つ目の文章と同じ視点で情報を読み取ることができるかを問い、伝える内容に違いがあることに気付かせる。 ○課題提示から問いを作り、課題とする。 ○問題解決チャート ◎「うねを作る良さ」◆赤白トーク ◎「よいなえ」◆グループで画像を用いて話し合い ◎「ひりょうの量」◆全体で丸バツクイズ ◇身近な生活と比較させたりイメージさせたり、具体的なものを示して実感を伴う理解につなげる。	【思・判・表】 ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができた。(観察・ワークシート) ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができた。(観察・ワークシート)
	4 ○二つ目の文章を読み、文章の中から視点に沿った重要な語や文を考えて選び出すことができる。			
	5 ○二つの文章を読み比べ、違いを見つけることができる。			
	6 ○文章を読み比べて、共通点を見つけることができる。			
	7 ○二つの文章を読み比べ、共通点を見つけることができる。			
	8 ○文章を読み比べて、共通点を見つけることができる。			
第三次	9 ○二つの文章には、目的に合わせた説明の違いがあることを捉えることができる。	・二つの文章それぞれのよさを見つけ、筆者は、どんな目的でこの文章を書いたのかを考える。 ・自分の育てたい野菜のそだて方を調べ、目的に合った重要な語や文等を選び、「やさいのそだて方マップ」を作る。 ・作品を共有し、感想を持つ。	○なぜ、説明の仕方が違うのかという点を押さえる。◆ペア→全体でフリートーク ○これまでに作成したことを可視化して掲示する。◇思考ツールを掲示して比較◆全体 ○目的や用途に合わせて文章が違っていることを押さえる。◆全体	【知・技】 二つの文章を比較して、共通・相違などを理解することができた。(ワークシート) 【態】 二つの文章を読み比べて分かったことや考えたことを伝え合おうとしていた。(観察・ワークシート)
	10 ○植物を育てるために重要な情報を読み取り、まとめることができる。			
	11 ○作品を共有し考えを持つことができる。			
	12		○読み取りの際に学んだ視点を生かして書くようにする。◆ペアで見直し ○みんなの「やさいのそだて方マップ」を 1 冊にまとめ、「やさいのそだて方ブック」を作る。◆作品を共有	【思・判・表】 図書教材の中から、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができた。(ワークシート)

5 本時の学習

(1) 目標 文章の中から視点に沿った重要な語や文を考えて選び出すことができる。

(2) 本時の展開 (5・6/12時間)

時	学習活動	指導上の留意点 ★主な発問	評価規準
5 時 目	導入 1めあての確認	○前時の学習を振り返り、一つ目の文章との大きな違い（見出し）から、めあてにつなげる。 めあて：見出しを せつめいするための 大じな ことばや文を 見つけよう。	【態】 ・自分の考えを友達に伝えようとしていた。
	展開 2見出し①「高いうねを作る」の内容を読み取って、大事な語や文をまとめる。	○読み取った情報を手がかりに、見出しと文章を対応させる。 ★どんな言葉や文に注目すると、見出しと文章をセットにできるかな。 ○呼びかけの文をもとに、問題解決チャートを用いて、イモを育てるためのポイントを整理していく。 ○それぞれの見出しごとに、大事だと思う文にしるしをつける。（考：1回目） ○一つ目の見出しについて考える。 ★なえは、うねの上と下、どちらに植えるのでしょうか。 ○文の中にある言葉を使って、理由を伝え合う。 ○赤白トークで立場を示す。考えが変わった人は帽子の色を変える。 ○視点を与え、大事だと思う文に線を引く。（考：2回目） ★うねを作ると、どんないいことがあるのかな。 ○全体の考えをまとめる。	
	終末 3振り返り	○振り返りの視点 ・大事な言葉を選び出せたか（どのように） ・共有を通して学んだこと など	
6 時 目	導入 1めあての確認	○前時を振り返り、残りの文章も同様に、大事な言葉を落とさずに、まとめていくことを確認する。	【思・判・表】 ・文章の中から、視点に沿った重要な語や文を考えて選び出すことができた。 (観察・ワークシート)
	展開 2見出し②「よいなえをえらぶ」の内容を読み取って、大事な語や文をまとめる。	○二つ目の見出しについて考える。 ○NGな画像から、伝えられていない情報を見つける。 ★どうして、この画像は使われなかったのでしょうか。 ★使われているイラストから分かることはなんだろう。 ○視点を明確にし、大事だと思う文に線を引く。（考：2回目） ○全体の考えをまとめる。 ★よいなえって、どんななえですか。 ○三つ目の見出しについて考える。 ○丸バツクイズ形式で立場を示し、叙述から根拠となる文を伝え合う。 ★肥料をたくさんあげると、大きいイモが育つ。○か×か ○視点を与え、大事だと思う文に線を引く。（考：2回目） ○全体の考えをまとめる。 ★どれくらいあげるのでしょうか。 ○それぞれまとめたことが、りっぱなイモがたくさんしゅうかくできるポイントであることを押さえる。	
	展開 3見出し③「ひりょうをやりすぎない」の内容を読み取って、大事な語や文をまとめる。	○丸バツクイズ形式で立場を示し、叙述から根拠となる文を伝え合う。 ★肥料をたくさんあげると、大きいイモが育つ。○か×か ○視点を与え、大事だと思う文に線を引く。（考：2回目） ○全体の考えをまとめる。 ★どれくらいあげるのでしょうか。 ○それぞれまとめたことが、りっぱなイモがたくさんしゅうかくできるポイントであることを押さえる。	
終末	3まとめ	○学習したことを確認し、言語活動に生かすことを伝えてまとめとする。	
	4振り返り	○理解度メーターで学習の理解度を示し、振り返りの視点に沿って記述する。	



IV 仮説の検証

本研究の仮説に基づき「視点の明確化」「学びを可視化・共有すること」の取り組みが、説明的な文章における読む力を高めることに有効であったかを、検証授業のワークシート及び振り返りの記録、アンケート等をもとに検証を行う。また、単元のゴール「文章から目的に沿った重要な語や文等の必要な情報を読み取り、考えを広げたり深めたりする」ことができたかの分析を行う。

1 視点の明確化について

視点を明確に示すことが、重要な語や文をなど必要な情報を正しく読むことや、文章のよさや目的を捉えることに有効な手立てであったかの検証を行う。

(1) 文章を読んで重要な語や文を読み取れたか

一つ目の文章の読み取りでは、「サツマイモを育てるために必要な情報を読み取って表にま

とめる」ことを目標とした。初めに、一つの段落に限定して必要だと思う情報にサイドラインを引かせところ、全文に引いたり、「は」「くき」などのサツマイモの部位のみに引いたり、全く引けなかったりする児童の姿が見られた。このことから、それぞれの「大事な語や文」の捉え方が異なっているだけではなく、必要な情報を読み取ることができない児童も多くいることが分かった。そもそも筆者は、必要な情報

を選んで文章という作品にしていることから、どれも大事な語や文である。つまり、着目する視点によっては、どれも間違いでないということがいえる。そこで、「時期」「手入れ」「様子」と三つの読む視点を明確に示すと、87%の児童が必要な情報を読み取ることができた。その際、「時期」が分かる語には青、「やるべきこと（手入れ）」には黄、「サツマイモの様子」には赤、というように色分けすることで、思考を整理しながらマトリクスを完成させることができた。また、「時期」に視点をあてたことで、時間の順序に沿って説明されていることに気付いたり、文章の大まかな構成を捉えたりすることができた（図7）。

二つ目の文章の読み取りでは、視点として三つの見出し、①「高いうねを作る」②「よいなえをえらぶ」③「ひりょうをやりすぎない」を詳しく補足するため、必要な情報を読み取る活動を行った。児童の変容を見取るため、1回目は、視点を示さずに自由にチェックさせた。すると、やはり一つ目の文章の時と同じように、「必要な情報」の捉え方がそれぞれ異なった。2回目は、視点を明示することで、見出しを補足するための必要な情報を読み取ることができる児童が、約40%から約80%に増えた。3回目は、実生活と結びつけて全体で確認することにより、選び出すことができなかった20%の児童も、選び出すことができた（図8）。

これらのことから、読む視点を明確にすることは、必要な情報を読み取ることに有効な手立てであるといえる。

(2) 文章のよさや目的を捉えることができたか

二つの文章の共通点や相違点を読み取ることを通して、それぞれの文章のよさや目的を考えることができたかを検証する。

「絵が違う。」「文が違う。」など、低学年であり

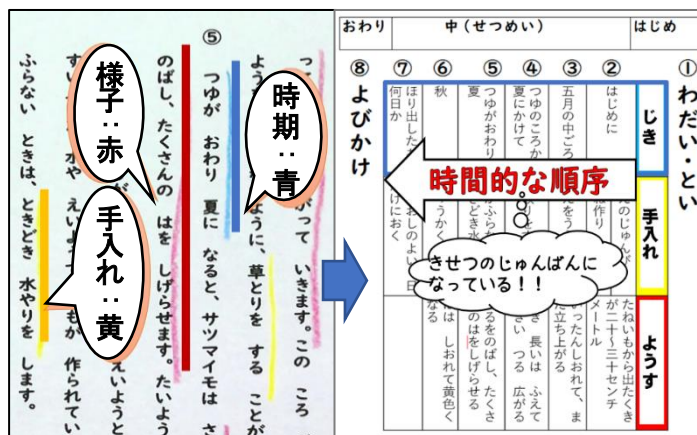


図7 視点ごとの色分けからマトリクスへ

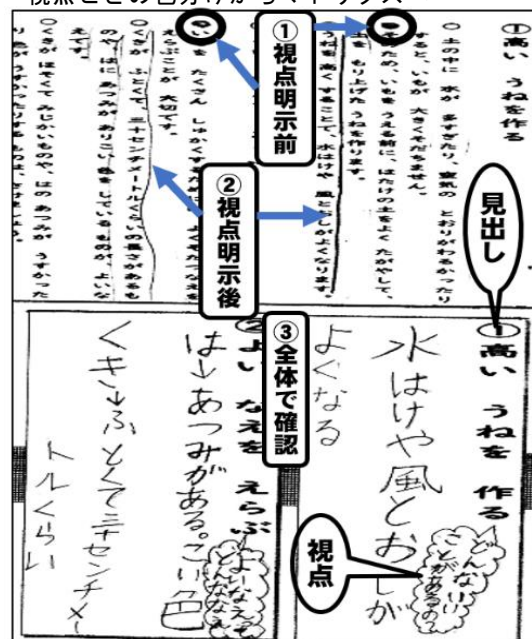


図8 視点を示す前後の変容の様子

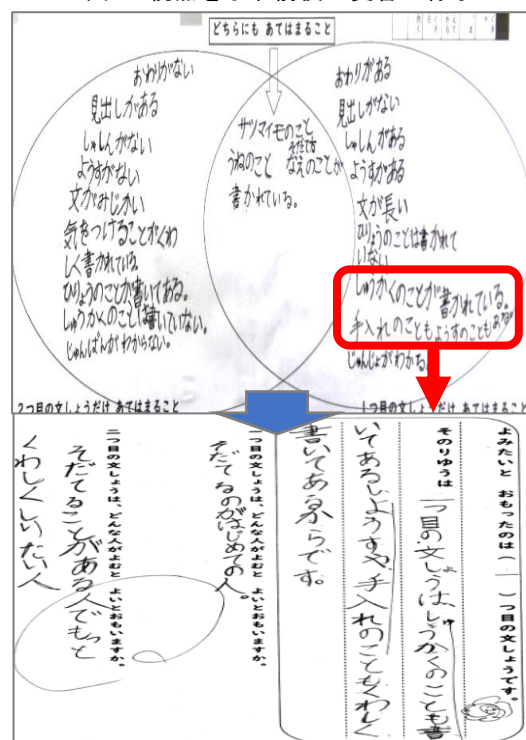


図9 文章のよさと目的

がちな、目的から大きく逸れた読み取りにならないように視点を設けた。「見出し」や「文章の長さ」等の視覚的に捉えられる視点と、「話題」「時期」「様子」「文章構成」等の叙述から読み取る視点である。視点に沿った読み取りを行うことで、全員が共通点や相違点を捉えることができていた。また、読み取ったことを新たな考える視点として、それぞれの文章のよさや目的につなげる児童の姿も見られた(図9)。ただし、相違点を見つける際、「見出しが書いてある」「見出しが書いてない」などのように、文末を反対にして、どちらにも同じ視点で考えたことを書いている児童が多かった。今後の課題としていく。

以上のことから、情報を読み取る際の視点を明確にすることで、児童は思考を焦点化することができ、重要な語や文、共通点や相違点等、必要な情報を読む力を養うことができた。また、選び出した情報を基に、新たな視点を設けることで、説明の順序や、文章構成、それぞれの文章のよさや目的を捉えることにも有効な手立てであったといえる。

2 学びを可視化・共有することについて

先述した二つの機能、「情報をインプットするための可視化」、「熟考、アウトプットするための可視化」が、学習の見通しを持たせることや互いの考えを広げたり深めたりすることに有効であったかを検証する。

(1) 学習の見通しを持つことができたか

単元の導入部では、ICTを用いて学習の概要を紹介したり、簡単なデモンストレーションを行ったり、単元のゴールである言語活動のモデルを示したりすることで、具体的な見通しを持つことができ、スムーズに学習計画を立てることができた(図10)。また、それらを掲示することで、行うべき学習活動はもちろん、単元全体の流れを把握しつつ、目指す方向に向かって取り組む児童の姿が見られた(図11)。検証前と検証後に行ったアンケートの、「単元や授業が始まる前に、どんなことを学習するのかが分かる」の項目では、肯定的な回答が学級全体の60%から90%に上がった(図12)。このように、目指すべき方向性を可視化によって示すことは、読む力の土台となる、学習の見通しを持つことや、学習の方向を揃えることに効果的であったといえる。

(2) 考えを広げたり深めたりすることができたか

単元導入部では、学習計画につなげるための問いを持たせたり、教材への興味・関心を高めたりするための手段として、「サツマイモのそだて方について知りたいこと」をイメージマップに表した(図13)。ここでは、児童間の学力の差は、ほとんど感じられず、どの児童も意欲的に考えたことを表現し、発想を広げたり思考を整理したりすることができた。友達と照らし合わせて見ることで、「知りたい」ことに共感したり、気付きを持ったりと、意欲的に学習に向かう姿が見られた。

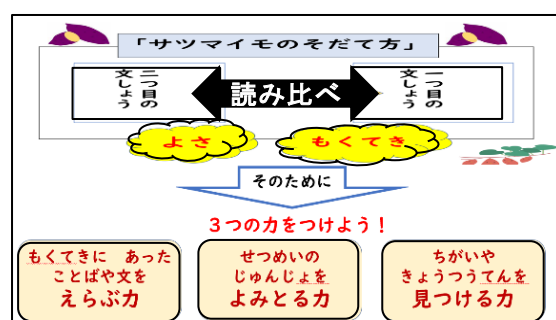


図10 導入における可視化



図11 掲示物による可視化

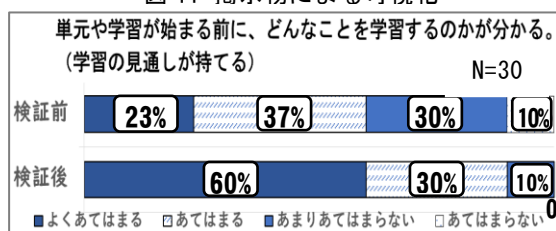


図12 児童アンケートの結果

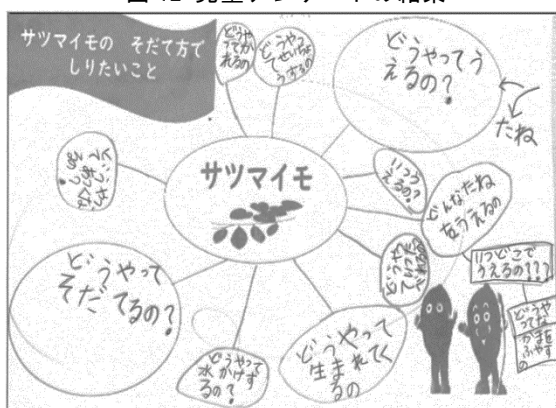


図13 イメージマップ

全文シートを用いての学習活動では、二つの文章を比較して、文章の長さや見出しの有無など、視覚的な違いに気付くことができた。また、先述した図7のように、視点ごとの色分けで、段落ごとに「時期」「手入れ」「様子」があることに気付き、文章の構成を理解することにも効果的であった。抜き出した情報を短冊にして並び替える活動は、間違えてもすぐにやり直すことができるという利点がある。組み合わせや順序について対話を重ねたり熟考したりする姿が見とれた（図14）。

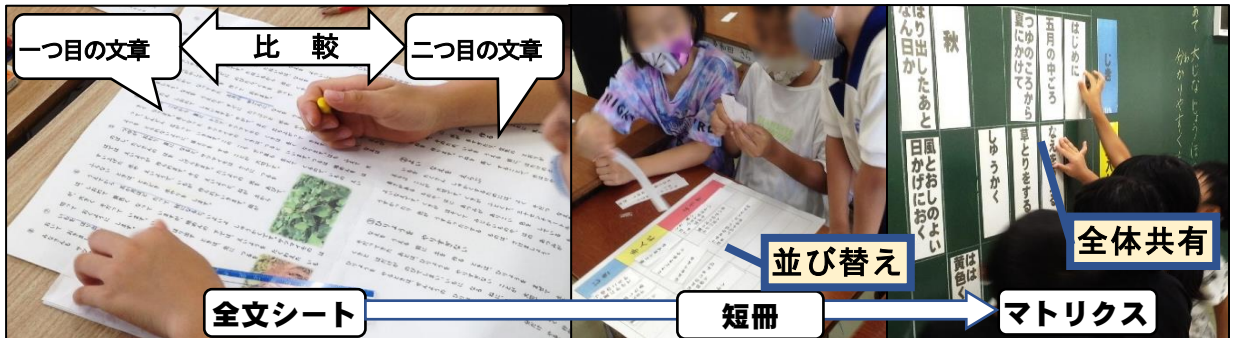


図14 全文シート→短冊を操作しての思考活動

ベン図を用いた活動では、共通点や相違点を読み取り、それぞれの文章のよさや目的を捉えることができた。自分が気づいたことを記録として積み上げていくことを視覚的に捉えられることから、楽しみながら取り組む児童の姿も多く見られた。「思考ツール」を用いることについては、ほとんどの児童が、「文が書きやすい」「比べやすい」「見て分かりやすい」など、肯定的な回答をしていた。

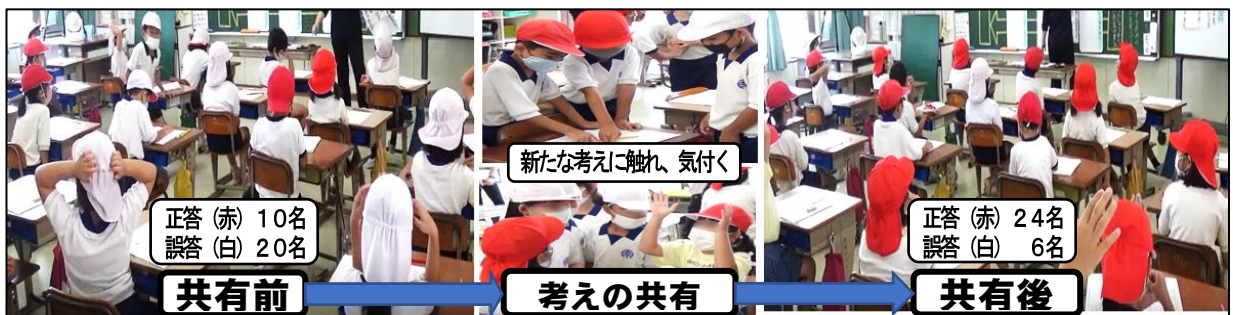


図15 赤白トーク

自分の考えの立場を示す際、帽子の色を分けて可視化する「赤白トーク」を行った（図15）。同じ考えの友達と考えを分かち合うことで自信を持ったり、考えを補足したり深化させたりすることができた。また、異なる考えの友達と共有することで、新たな考えに触れたり、気付いたりする変容を見とることもできた。可視化を用いた共有を行うことにより、半数以上の児童が初めに決めた色から反対の色に変え、最終的には学級の9割の児童が正しい情報を読み取ることができた。共有後の感想では、友達の意見を聞いて、新たな考えに触れたり、違う立場の考えに納得したりと、変容した様子を見とることができた（図16）。

また、これらのことから、可視化・共有することが、互いの考えを広げたり深めたりすることに効果的だったといえる。児童アンケートによると、全員の児童が「共有」することのよさがあると回答した。その理由として特に多かったのが、「考えときのヒントになった」「分からなかったことが分かるようになった」「自信がついた」などであった。

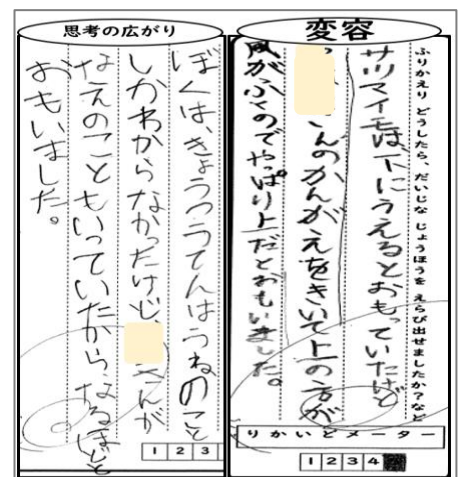


図16 可視化による共有後の感想

3 まとめ

本研究では、学んだことを生かして、「文章から目的に沿った重要な語や文等の必要な情報を読み取り、考えを広げたり深めたりすること」を単元のゴールと位置付け研究を進めてきた。「やさいのそだて方ブックを作ろう」と題した言語活動では、学級の児童全員が、目的に沿った図書教材を選び、育てるために大事な語や文など、必要な情報を読み取って「そだて方マップ」を完成させることができた(図17)。各自の取り上げる視点(見出し)を明確にすることで、96%の児童が、視点に沿った重要な語や文等の情報を読み取ることができた。「やさいのそだて方ブック」完成後の児童の振り返りからは、友達の作品と自分の作品を比較して、よさや違いを捉える姿や、「できた」という達成感や、「はやくそだててみたい」など、実生活に生かしていきたいという意欲が児童の振り返りからも感じ取ることができた(図18)。

これらのことを総合的に分析すると、冒頭で述べた課題への手立てとして、視点を明確にすることで、必要な情報を正しく読み取ることができた。また、読み取ったことや考えたことなどを可視化することで、思考の整理や熟考ができ、分かったことなどを共有して互いの考えを広げたり深めたりすることができた。よって、これまでの手立てが、「読む力」を高めることに有効であったということがいえる。

V 成果と課題

1 成果

- (1) 文章を読み取る際、視点を明確にすることで、重要な語や文、共通点や相違点など、必要な情報を選び出すことができ、文章のよさや目的を捉えることができた。
- (2) 学びを可視化することによって、見通しを持って学習に取り組んだり、考えを整理・熟考したりすることができた。
- (3) 感じたことや分かったことなどを共有することで、考えを分かち合い、自信を持ったり、正しい情報を読み取ったりすることができ、違う立場の考えに共有したり互いの考えを広げたり深めたりすることができた。

2 課題

- (1) 視点を明示し、共有を行った後でも、正しい情報を読み取ることができない児童がいたため、実生活と関連付けたり、実感を伴って理解できる支援をしたり、文章量を調整したりするなどの手立ての工夫を行う。
- (2) 相違点を読み取る際に、「見出しがある」「見出しがない」などのように、文末だけに注目している児童が多いため、語彙力を増やし、豊かな表現ができるよう授業改善を行っていく。



図17 やさいのそだて方マップ(上)
やさいのそだて方ブック(下)

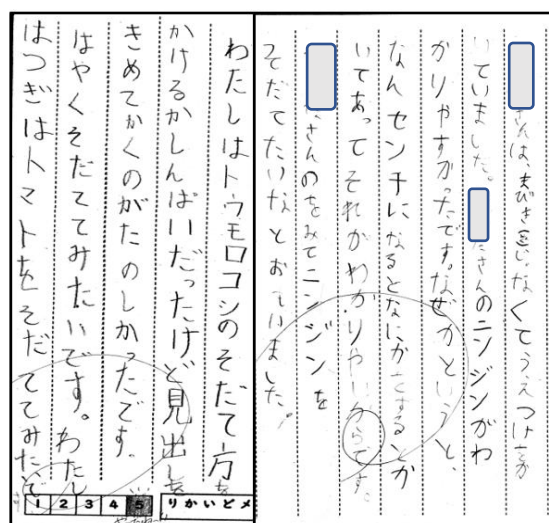


図18 児童の振り返り

〈参考文献〉

- 茅野政徳 2021 「指導と評価を一体化する 小学校国語実践事例集」 東洋館出版社
- 全国国語授業研究会 2021 『「深い学び」をうむ授業改善プラン 説明文』 東洋館出版社
- 田中博之 2021 『「主体的・対話的で深い学び」学習評価の手引き』 教育開発研究所
- 沼田拓弥 2021 『「立体型板書」でつくる国語の授業 説明文』 東洋館出版社
- 沖縄県教育委員会 2020 「令和2年度版『問い』が生まれる授業サポートガイド」
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校国語』 東洋館出版社
- 全国国語授業研究会・筑波大学附属小学校国語研究部編 2020 『子どもと創る国語の授業 No. 67』 東洋館出版社
- 瀧澤真 2018 「国語の授業がもっとうまくなる 50 の技」 明治図書出版株式会社
- 中村和弘 2018 『資質・能力ベースの小学校国語科の授業と評価』 日本標準
- 水戸部修治 2018 『小学校国語科 質の高い言語活動パーフェクトガイド1・2年』 明治図書出版株式会社
- 水戸部修治 2018 『小学校新学習指導要領 国語の授業づくり』 明治図書出版株式会社
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領平成29年度告示解説国語編』 東洋館出版社

〈参考WEBサイト〉

- 黒上晴夫・小島亜華里・秦山裕 2012 『シンキングツール ～考えることを教えたい～』
http://Ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf （最終閲覧 2021 年 8 月）
- 中央教育審議会答申 2016 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf
（最終閲覧 2021 年 8 月）
- 実用日本語方言辞典 <https://www.weblo.jp/cat/dictionary/jtnhj> （最終閲覧 2021 年 8 月）
- デジタル大辞泉 <https://daijisen.jp/digital/> （最終閲覧 2021 年 8 月）